

まあい瞳で…～おめめどうから幼児期へのお手伝い～

障害を持って生まれてきた子どもたち…手探りの生活でせつかくのかわいい幼児期をピリピリと過ごす事はお互いにとても辛いことです…どうしたら穏やかに子どもたちと関わっていけるでしょう。。。

障害があっても、周りの大人がまあい瞳で子どもたちを見つめていけるように…そんな風にゆとりをもって過ごせるように、おめめどうから幼児期の子どもたちとの生活のコツをまとめてみました！

Ⅰ 生活環境作り

● ● 必要なのは早期療育ではなく、早期環境調整。生活を子どもたちにとって分かりやすい環境に！ ● ●

例えば、食べる、眠る、排泄する…どこも同じ場所ではしませんよね。食べるは、テーブルです。眠るは、お布団の上、排泄するは、トイレです。こうして、活動と場所がはっきりと1つずつになっているのは、その方が楽にできるからです。(一対一対応。そこにきたら、やることを意識する)

けれども、実際は「そこでしか出来ない活動」と「他の所でも、やろうと思えばできる活動」というものが生活の中にはあります。例えば、着替える、遊ぶ、お絵かきをするといったことです。

私たちは、場所の兼用や時間的な割り切りができたりして、スムーズに「今は何をやる所にいるのか」の変更ができます。しかし、自閉症・発達障害の幼児さんや知的に重いお子さんは、そういう理解が難しいのです。

なので、大人たちが「どこでもオムツを変える」「どこでもお菓子を食べる」「どこでもお絵描きをさせる」という生活をする、「どこ」と「なに」がお子さんの中で結びつきにくくなっていきます。つまり「トイレ」にいなくても用をたせる、「テーブル」じゃなくても食べれる、「画用紙」じゃなくてもお絵描きできる…「どこでも…」という事になってゆきます。結果的には、ダメ!ダメ!という回数が増えていきますが、本人にとっては何がダメなのかは伝わっていかない、という結果になってしまいがちです。

なので、もし可能であるなら障害をもつお子さんに必要な「それぞれ場所」を決めてあげてください。

「このカーペットの上で着替えますよ」「このテーブルで絵を描きましょう」「おもちゃは、ここで遊びましょう」「パンツを履き替えるのは、トイレです」

また、障害の特性から「そこでは、そうするもの」と考えていきますから(同一保持の特性)、適切な場所「ここでは、こうする」と言う事を決めていくことは、障害をもつお子さん自身にとっても楽に感じられます。

● ● ● 具体的にはどうしたらいいの? ● ● ●

時間軸のはっきりしていない幼児さんや知的に重いお子さんにとっては、場所の移動によって活動がわかるようにすると、生活がスムーズに流れていきます。ここでは具体的にどうようにしたらよいか、ご紹介していきます。

- **ものを置くところ、何かする時に行く場所などは、マークをつける等でわかりやすくします。**
片付ける場所→もつ所に印。足の位置や持つところなども、マークがあると気がつきやすくなります。
勿論、本人に伝わる印というのが重要です。子どもが見て分かるかな?とマークを決める時は反応を観察して下さい。
- **「してはいけないこと」を絵を書いて×をするなどで伝えていきます。そのかわりに「これはしていいこと」、として○を必ず伝えます。**
くどくど口頭注意をしなくていいようにするのが、環境を整えるコツです。
- **エリアを決めたいときは、テープを貼る、カーペットやシートを敷くなどの工夫もあります。**
見ためですぐに分かるようにしておく事で、お互いが楽になります。
- **自分の持ち物には、お子さんにわかるマークを付けます。**
自分のものを、確実に理解していくことで自分と他の人の区別ができるように発展していきます。
そのとき、本人が好きなものをチョイスする。選んだところへゆく…と、本人に関わるものは少しずつ本人で選んで活動できるようにしていきます。
- **触ってほしくないものは、隠したり、見えなくしておきましょう。逆に、触って欲しいものは手に取れる所に見えるようにしておきます。**
- ★★特別にいるもの★★
- **カムダウンエリアを作ります…混乱した、パニックになった…など、辛いときに逃げ込めるシェルターのような場所の事です。**
刺激を避け、気持ちを落ち着ける逃げ場所を確保しましょう。ピアノの下、本箱の中でも、かまいません。
本人が落ち着ける場所をあえて作ることで、しんどくなったら、人から離れ、ひとり冷静になることをゆっくりと覚えてもらいましょう。

つまらない叱責をしないで済むようにしましょう。それだけでも、暮らしは快適になりますよ♪
日々の疑問や質問は、抱え込まずおめめどうにご相談下さいね。